

KWに決定されてゐる。

年平均總發電力五十二萬三千KW(推定發電力七十三萬五千KW)、可能發電量四億五千八百五十萬KWHの内、季節によつて左右される發電量は一億一千萬KWHに過ぎない。尙、流水量の調節は數個の貯水池をチンダドイ河々口(三億三千萬立方米)、プフタルミンスコエ湖(四千萬立方米)及びポリシイ急瀾等に設置することによつて行ひうる。

ベーラヤ・ベレーリ河及びトルグスン河(プフタルマ河支流) この兩支流は標高の非常に高いアライ山脈の斜面に發源し、山岳性河川に屬する。ベーラヤ・ベレーリ河の河長は六〇杆、流域面積は一一〇平方杆、トルグスン河の河長は七〇杆、流域面積は一四〇平方杆である。

兩河の理論的に算定された電力は概略次の如くなつてゐる。

ベーラヤ・ベレーリ河——總量八萬四千百KW、實際八萬百KW、トルグスン河——總量三十八萬八千四百KW、實量三十七萬六千三百KW、トルグスン河には發電力千KWの水力發電設備が存在する。

ロギデブの計畫案によればプフタルマ河の諸支流に於ては年平均發電力四萬三千KW、推定發電力六萬三千KW(發電量三十七萬五千KWH)が生産しうる。

ウリバ河々系(イルトイシ河支流)ウリバ河はアルタイ山脈西部に在り、イルトイシ河の右支流である。ウリバ河は、グロモト、一ハ及びチーハヤ兩河の合流によつて構成され、従つて兩河の流域は、ウリバ河の流域と稱するを得、その流域面積は五、四〇〇平方杆である。

グロモト、一ハ河 ウリバ河の左支流たるグロモト、一ハ河は高さ二、一四〇米の山岳の湖(水深〇・三平方杆)に源を發し、左右兩グロモト、一ハ河の合流により成り、水源より河口迄の全長は約三二杆、流域面積は四〇〇平方杆であり、東より西に流れる。グロモト、一ハ河の河谷は狭くして、白嶺の急峻な斷崖に圍まれ、一〇〇乃至三〇〇米の落差を有する水力發電設備に有利なる條件をなしてゐる。河床には岩石多く、所により、殊に其の下流に在つては裸岩と碎石が堆積をしてゐる。上流に於ては河の傾斜度は毎杆約四〇米、下流に於ては毎杆二〇米であり、水流は激しい。

チーハヤ河 チーハヤ河はフィリップカ河とブイストルーハ河の合流せるものにして、總延長約一六杆、流域面積は七三〇平方杆である。最初の一〇杆に於ては、河は廣いリデルスカヤ河谷を流れ、傾斜度小さく、流れは比較的靜穩である。それより後は、チーハヤ河は廣いリデルの松杉林區を通過するが、其處に於ては河の勾配と流速は増加する。

ウリバ河 當河はグロモト、一ハ河とチーハヤ河の合流點より河口に至る迄の間にあり、延長約一〇〇杆、流域面積は五、四〇〇平方杆である。河流の最初の四杆に於てはウリバ河は南方を指して流れ、この河區に在りては河は途中屢々分流する。河床は厚い火山岩層の上に在り、河系は變化に富み、急流をなして流れてゐる。ケンドロフカ河々口下方に於ては當河は一層急流となり、この地域にはウリバ急瀾が在り、河には左側より多くの谿流が流入

してゐる。然し、右側からウリバ河に流入するには單にボズドネバロフカ河のみである。

ウリバ河は半ばは氷河に發源し（グロモトウーハ河の河源と同じ）、一部は雪と驟雨によつて涵養されてゐる。當地方には降雨が多いため増水期の短い割に水位の變動は激しい。尙、冬季には河に初氷、氷上滲出水及び雪下の溜水が現はれる。

ウリバ河の結氷は十一月—十二月の期間に起り、解氷は三月末—四月初めに起り、河水の完全に消失するのは四月である。

冬期の時日は最少限百日、最大限百四十六日で、ウリバ河々口（ペールイールグ）に於ける水位の變動は三・二米である。

マールヤ・ウリバ河（ウリバ河の支流） 當河はグルビツァ山頂の山麓附近に源を發し、グリビツァ山からは諸方に山脈が分派し、これらの山脈はグロモトウーハ、トルグスーン、コムスウ及びマールヤ・ウリバの四河川の集水流域の分水界を成してゐる。

マールヤ・ウリバ河の流域は海拔二、二〇〇米及び一、六四〇米の間に在り、その總延長は約一〇〇軒、流域の面積は二、四〇〇平方軒である。

ウリバ河流域諸河川の理論的年平均發電力は總量五十四萬三千五百KW、實量四十七萬四千四百KWである。

尙、當地方の良好なる自然的條件はウリバ河及びその流域に於ける發電設備の建設を可能ならしめて居り、その

全河系の利用計畫案はロギデブによつて作製せられてゐる。マールヤ・ウリバ河には有効容積八千四百三十萬立方メートルの貯水池が水位一、六七〇米の高地に建設される計畫であり、若しこの貯水池が完成すれば、河水はレーワヤ・グロモトウーハ、ブイストルーハ、チーハヤ及びウリバ河の發電設備に誘導され、それによつて十二個の發電設備（マールヤ・ウリバ河に計畫された三個の發電設備を除く）に河水が利用されるであらうから、河川の發電量は更に増加するであらう。尙、チーハヤ及びウリバ河に於ける地質條件は高いダムの建設に不適なるも、クロモトウーハ及びマールヤ・ウリバ河に於ては幾分良好であり、合計十五の發電設備が列挙しうる。今、その内の主なるものを示せば次の如くである。

第一—ハリウゾフスカヤ水力發電所—一九二八年に建設され、水壓五八米、推定發電所二千KW乃至四千KW、河水はグロモトウーハ河より誘かれ、ハリウゾフカ河に放出され、有用流量は毎秒四・五立方メートルである。

第二—第一號ブイストルシンスカヤ水力發電所—一九一四年に建設され、一九三〇年に改造せられた。當發電所は合計六百KW乃至八百KWの發電力を有し、水壓一八米、流量毎秒七立方メートルである。

第三—ウリビンスカヤ水力發電所—ウリバ河にあり、ティシヒンスコエ貯水池（容積—三百萬立方メートル）に根據を置き、水壓一五五米、流量毎秒一四米、年平均發電力一萬八千四百KW、推定發電力二萬七千六百KW、發電量一億一千萬KWHにして、目下建設中である。

第四—第二號ブイストルシンスカヤ水力發電所—ブイストルーハ河にあり、發電力千六百KW乃至二千四百

KW、水壓三三米、流量毎秒三立方メートルであり、目下建設中である。

更に、現在ドロモトウーハ河には二個の水力発電所の設立が行はれてゐるが、暫定資料によればその特徴は次の如くなつてゐる。

第五——第一號ティシヒンスカ水力発電所——これはレーワヤ・ドロモト。ーハ河にあり、水壓五五〇米、流量毎秒五立方メートル、年平均発電電力二萬二千KW、推定発電電力三萬九百KW、発電量一億九千萬KWHである。

第六——第二號ドロモト。ヒンスカヤ水力発電所——これはドロモトウ河に在り、水壓一五〇米、流量毎秒九〇立方メートル、年平均発電所一萬KW、推定発電電力一萬三千三百KW、発電量八千七百萬KWHである。

尚、他の九発電設備は現在設画中である。

ウバ河（イルト。イシ河支流）これはドリビシチ。山群（高度二七五〇米）に發源するチルナヤ・ウバ河及びベーラヤ・ウバ河の合流より成り、ウバ河は山頂を恒雪線上に持つコクシンスキイ、クミルスキイ及びゴルゴンスキイ白嶺の水によつて北より涵養され、南よりはウバ河の分水嶺をなす高度二、八〇〇米のイワノフスキイ白嶺によりて涵養せられてゐる。ウバ河の總延長は約三三五軒、流域面積は九八〇〇平方軒で、其の内六〇%までは山岳に掩はれてゐる。ウビンカ河口に至るまでの山岳地方に於ては、ウバ河々谷は處に依り幅員四〇〇——一、六〇〇米を有し、マルイズ、ピフトフスク、ポリシヨイ（ペロパロチナヤ・ウバ河口）等のウバ河の諸急湍に在りては可成り狭くなつてゐる。これ等の箇所には山脈は時に斷崖を成してウバ河に迫り、河床は一般に八〇——一五〇米の幅員を有

し、處に依り一〇米まで縮まつてゐる。河谷はモロジ。ハ河附近即ちウルフネウビンスコエ村を過ぎて著しく擴大し、洪澗地はシモナイハ河より下流に於ては丘陵性草原を背後に持つ粘土の絶壁によつて限定されてゐる。

水力発電業合同の資料に依れば、大急湍附近のウバ河の平均流量は一九二五——二六年に於ては毎秒一〇五・三五立方メートル、最低流量は毎秒七・二立方メートル、最高流量は毎秒二〇七〇立方メートルであつた。ウバ河の北部支流は南部支流よりも水量豊富であり、又、傾斜度の大きなる特徴とする。その内、発電力保有量の大きい主要河川はマールヤ・ウバ河、ペロパロチナヤ河、ウバ河及びウビンカ河である。ウバ河流域の理論的年平均発電電力は、總量三十三萬三千七百KW、實量三十萬七千七百KWである。

尚、ウバ河上流のウルチ。ハ河流入點までの利用はアルタイ水力調査局により五発電設備による動力利用案に於て研究されて居り、ウバ河下部は二——三発電設備によつて利用される筈である。発電設備の水壓は九〇——三〇米であり、年平均總発電電力二十萬六千KW、推定発電電力三十萬六千KWである。

尚、ウバ河発電設備の一つ（大急湍にある）に關しては電氣技術中央會議によつて保證された技術的案が造られて居り、その推定発電電力は全能力の發揮により六萬KWとなるものと看られてゐる。

イシム河（イルト。イシ河支流）當河はカザーク自治共和國疆域外ウスチ。イシムスコエ驛附近に於て左側よりイルト。イシ河に流入する。イシム河は海拔約四五〇米の高地に源を發し、延長二、二〇〇軒を有し、上流區域に於ては狹隘なる岩質河床を流れ、處に依り基本河岸は水路より非常に遠く離れてゐるが、其の間右岸は殆ど到る處高く

なつてゐる。そして河はアトバサル市の若干下方、チャルガン・アガチ地方に至る迄この性質を帯びてゐる。この地方に在りて、河は其の基本方向たる北西の方向を變へて殆ど北方に向ふ。アトバサル市の下方に於て河は河成段丘に限られた廣い河谷中を極めて迂餘曲折した河床に沿つて流れる。チャルガン・アガチ地方に於てはイシム河は途中花崗岩礫に出會し、極めて急峻なる岩壁を持つ河岸中を流れ、其處を流出すると、直ちにその河谷は再び擴大する。更に舊ベトロバウロフスキイ郡に近づくると河は草原河川の性質を帯び、支流を缺き、緩慢な流れとなる。

舊アトバサルスキイ郡限内に於けるイシム河の平均流速は毎秒四・二米、深度は〇・五乃至八米である。尙、アタモリンスク市とサルガ急端間の平均傾斜度は毎軒〇・二四米、サルガンとベトロバウスタ市間毎軒〇・一五米、ベトロバウロフスタ市とイルト・イシ河への流入箇所間毎軒〇・〇八米である。

イシム河は上流に於てカザーク自治共和國の中部の山岳より流下する多數の小支流を併はせ、下流に至つて平原に流出すれば、全然支流を有しない。尙、春の出水時には河は平野に於ては幅員一五軒——二〇軒に亘つて氾濫する。

イシム河々谷の地形より見て、その上流の各河區には發電設備が建設しうるものも考へられる。

ウラル河 ウラル河はバシキール自治共和國の地域に存するカリカン湖に源を發する。當河はイレク村より裏海への流入口まで延長約一、一一六〇軒の下流のみカザーク自治共和國限内に置き（ウラル河の上流に就いてはウラル州及びバシキール自治共和國の水力資源概観中に記述せられてゐる）、ウラル河の總延長は二四三六軒、流域面積は二十二萬平方軒で、カザーク自治共和國限内に於けるウラル河の理論的年平均發電力は年平均流量に從つて、總量十四萬九千KW、實量八萬八千KWと決定されてゐる。

第三節 水力資源の總體的特徴

前にも述べた如く、このカザーク自治共和國の水力資源の分析にはまだ多數の小支流やカザーク自治共和國の中部、北部及び西部に存在する夥しき平原河川が書き加へられてゐない。

今、流域別に叙上諸河川の推定發電力を表示すれば次表の如くなる。

(第八表)

流域	年平均發電力(單位千KW)		最低發電力(單位千KW)	
	總量	實量	實量	實量
スイル・ダリヤ河	一、八四六・一	一、五〇四・一	九二六・六	七四九・四
内河	二、四〇七・一	一、九八〇・八	九一一・〇	七六九・二
イルト・イシ	四、三八五・五	二、六二一・九	五五八・四	二九五・一
ウラル	一四九・〇	八〇・〇	一五・八	八・五
計	八、七八七・七	六、一八七・六	二、四一一・八	一、八三二・二

カザーク自治共和國の基本的な水力根據地は東部山岳地方であつて、南部地方のイリイ河、チャルイン河及びチリ河等は二位にある。カザーク自治共和國の南部及び南東部は總て灌漑農業地帯に屬し、本流より運河により河水を誘導する方法によつて耕地を灌漑してゐる。當地方に於ては中央アジア諸共和國の各地方に於けると同じく灌漑なしには如何なる農業も不可能である。従つて灌漑の利益が河川の利用上最も重要であることは當然であり、このことは河川の動力的利用範圍を制限してゐると共に河川利用計畫に當つて灌漑の利益を考慮することを要求して居る。乍然、各灌漑運河間の中間河區の利用は河川利用に於ける動力的効果の不可避的低下を幾分緩和し、灌漑用施設による河川の改修は水力發電設備への投資額を幾分節約せしめる。

尙、イルト・イシ河流域及びウラル河にとつては船舶の航行問題が重要な意義を持つて居り、この問題も河川利用計畫に於て適當に考慮されねばならぬ。その他カザーク自治共和國の主要工業地方（カラガンダ、コウンラード、ゼズカズガン及びボシチニコリ）の存在する共和國中部の諸河川は都市への給水上考慮されねばならぬ。目下ヌラ河には容積七十萬立方メートルの一貯水池が建設中であり、他の二、三の貯水池の建設も計畫されてゐる。現在カザーク自治共和國に於ては主としてリール複合金屬複合企業のため推定發電力三萬五千KWの數個の小規模水力發電所がウリバ河系の諸河川に設立されて居り、また建設中である（ウリバ河概説参照）。

要するにカザクスタンの豊富なる水力資源の利用は漸く着手されたに過ぎないが、總計畫によればカザーク自治共和國に豫定されてゐる發電力の約四〇％は水力發電設備に於て生産される筈である。

参 考 文 献

- 一、水力資源調査本部編『カザクスタン諸河川の發電力概説及び發電力表』レニングラード、一九三一年發行。
- 二、エヌ・ゲ・アレクサンドロフ著『一九〇〇——一六年度のスイル・ダリヤ河流域諸河川の流速資料』モスクワ、一九二四年發行。
- 三、イ・ア・ベンツォーレーウイチ著『トルクスタンの水路』ロシヤ諸河川概説資料、セントペテルブルク、一九一四年發行。
- 四、ベ・エヌ・レベデニーフ著『カザクスタンの水文概説』ソ聯學士院所屬探險調査班の資料、レニングラード、一九二八年發行。
- 五、エヌ・ア・カブイロフ著『カザクスタンの測高資料』聯邦及び自治共和國調査に關するソ聯學士院特別委員會の資料第一五輯、レニングラード、一九二七年發行。
- 六、カ・ギキシ著『アジア・ロシアの高地目録』ロシア地理協會の記録、セントペテルブルグ、一九〇一年發行。
- 七、中央アジア諸河川の流速資料、タシケント、一九二八年發行。
- 八、エヌ・ベ・ブズイレフスキイ著『スイル・ダリヤ河とその自然的特質並びに航行狀態』セントペテルブルグ、一九〇三年發行。

- 九、ベ・ハ・シレーゲリ著『中央アジアの河川經濟』モスクワ、一九二六年發行。
- 一〇、ヤ・ザボーリン著『南カザクスタン調査に關する技術的報告』一九二九年發行。
- 一一、エス・チ・ドミトリエフ著、一九一〇年度のチリク河々源旅行報告『ロシア地理協會ト。ルクスタン部時報』タシケント、一九一三年發行。
- 一二、ヤ・イ・ペリャーエフ及びエヌ・ア・コプイロフ共著『カザクスタンの天體測量、三角測量、磁力測量及び重力偏差測量地點目錄』ソ聯學士院探險調査班の資料、レニングラード、一九二八年發行。
- 一三、ブルムベルグ著『アルタイ山系の白炭』レニングラード、一九三〇年發行。
- 一四、ネハローシエフ著『一九二八年度のウビンスカヤ水力發電所計畫案』
- 一五、ア・コルネーエフ技師著『イリ河及びバルハシ河沿岸諸河川』一九一三年發行。
- 一六、『カザクスタンの河川及び湖水凍結に關する情報』一九二六年發行。
- 一七、ア・ア・コズイレフ著『カザクスタンの水文概説』一九二七年發行。
- 一八、同著『カザクスタン北東部及びカザクスタン隣接シベリア地方部の水文概況』一九二九年發行。
- 一九、同著『阿克モリンスク州南部の水文概説』セントペテルブルク、一九一二年發行。
- 二〇、カ・グーブヌイ・ゲルツィク著『イルト・イシ河利用問題』一九三一年發行。
- 二一、ア・コーネフ著『阿克モリンスカヤ州の河川經濟』

- 二二、『中央アジア諸共和國の自然資源』國立經濟學出版部、一九三二年發行。
- 二三、ロギデブ發行、『ウリバ、ウバ及びイルト・イシ河利用に關する資料』

カザーク自治共和国諸河川の發電力表

(附錄一)

順位 番號	地號 圖中の番	河川及び河區	河長 (km)	總傾度 (m)	流量(m ³ /sec)			細傾度 (m)	發電力(千KW)			所在地
					年平均	最低	最高		年平均	最低	最高	
1. スイル・ダリヤ河 F=265,000km ² (シムカリスキイ氏による)												
1	1	チナチン	130	22	850	440	19	137.63	71.24	118.96	61.53	X-20
2	2	チナルダーラ渡船場	370	49	830	490	40	299.33	165.89	244.35	135.42	Φ-23
3	3	イシカ・ウリス渡船場	270	27	820	480	21	162.95	95.39	126.65	74.19	Φ-20
4	4	チムニ・アルイク	350	32	815	500	24	191.95	117.75	143.75	88.49	Y-27
5	5	クズイル・オルダ市	325	44	815	500	37	264.15	162.00	222.00	136.20	Y-26
6	6	カラ・トウガイ村	205	18	815	500	13	107.97	66.25	79.00	47.85	Y-28
7	7	カザリソク市	165	15	815	500	11	89.98	55.20	65.98	40.48	T-25
2. チルチク河(スイル・ダリヤ河支流)上流及び下流はカザーク共和国内に在る												
			1,815	—	—	—	—	1,253.96	733.72	999.59	584.16	—

8	8	コクヌク河々口	44	255	250	80	226	469.20	150.01	415.84	133.07	X-29
9	9	イヌカソク村	26	245	8	3	228	14.43	5.41	13.42	5.03	Φ-23
10	10	クルソグール河々口	45	410	20	7	380	60.35	21.12	55.83	19.58	Φ-23
11	11	ボロルダ河々口	27	50	33	10	32	12.14	3.68	7.77	2.35	Φ-23
12	—	バダム河々口	120	75	40	12	—	22.08	6.62	—	—	—
3. アルイヌ河(スイル・ダリヤ河支流) F=15,010km ² (シムカリスキイ氏による)												
9	9	カルニロフカ村	26	245	8	3	228	14.43	5.41	13.42	5.03	Φ-23
10	10	クルソグール河々口	45	410	20	7	380	60.35	21.12	55.83	19.58	Φ-23
11	11	ボロルダ河々口	27	50	33	10	32	12.14	3.68	7.77	2.35	Φ-23
12	—	バダム河々口	120	75	40	12	—	22.08	6.62	—	—	—
4. ボロルダ河(アルイヌ河支流) F=1910km ² (シムカリスキイ氏による)												
13	12	河源	44	590	2	1	561	8.68	4.34	8.26	4.13	Φ-23
14	13	キイ・トウソール界標口	64	119	6	2	76	5.25	1.75	3.36	1.12	Φ-23
5. ツツサ河(チルス)アク・クウリ湖に注ぐ F=5,030km ² (シムカリスキイ氏による)												
			108	—	—	—	—	13.93	6.09	11.62	5.25	—

15	14	ノルノエ村	51	335	10	5	294	24.06	12.32	21.65	10.71	Φ-30
16	15	コナチヤガイ哨所の峡谷 ビナイリエ・クウリ湖	40	135	15	7	102	14.92	6.95	11.26	5.25	Φ-30
17	16	6. チム河 F=79,200km ² (シムカリスキイ氏による) コンスタツチノフスカ ヤ村	100	—	—	—	—	39.58	19.27	32.91	15.96	—
18	17	第三チム風の村	85	95	65	43	38	45.44	30.07	18.18	12.03	Φ-32
19	—	カラバルト・イ河々口 河	37	32	65	43	17	15.31	10.13	3.35	2.21	Φ-31
20	18	7. チクス河 (イリ河上流) マールイ・フイロバイ チケス哨所	40	130	11	4	97	10.52	3.83	7.85	2.86	Φ-25
21	19	8. イリ河 (バルハシ湖に注 ぐ) F=153,550km ² (シム カリスキイ氏による) ソ 支 國 境 ボロホルデルスキイ哨所	717	—	—	—	—	147.74	98.20	21.53	14.24	—

22	20	ボロホルデルスキイ哨所	100	29	465	200	25	99.25	42.69	85.56	36.80	Φ-34
23	21	キシカルカソ連山	117	31	465	200	27	108.09	45.63	92.40	39.74	Φ-33
24	22	イリ 哨 所 河 口	330	96	465	200	85	328.55	141.31	290.90	125.12	Y-32
25	23	9. チルイソ河 (イリ河支 流) F=12,360km ² (シムカ リスキイ氏による)	630	—	—	—	—	629.72	270.85	551.0	236.99	—
26	24	マールイ・エ・タ カチザス河々口	34	280	7	3	257	14.42	6.18	13.24	5.67	Φ-34
27	25	ロゾフシルイサイ	55	100	14	6	63	10.30	4.42	6.49	2.78	Φ-34
28	26	チヤスナイバイ泉	70	555	30	13	508	122.54	53.10	112.16	48.60	Φ-34
29	27	サルイ・トガイ界隈 河 口	59	465	45	20	426	154.01	68.45	141.09	61.71	Φ-34
30	28	10. チリク河 (イリ河支流) F=7,480km ² (シムカリ スキイ氏による)	255	—	—	—	—	368.50	162.67	331.93	144.96	—
31	29	チルマソト タルマソト河々口	29	1,110	3	1	991	24.50	8.17	21.88	7.29	Φ-33
			46	650	10	4	619	47.84	19.14	45.55	18.22	Φ-34

32	30	クルネソトオイ	57	570	20	9	532	83.90	37.76	78.31	35.30	Φ-34
33	31	バラタガイ界標	36	400	32	14	376	94.20	41.22	88.55	38.75	Φ-34
34	32	サイツマフスココヤ河	30	110	32	14	90	25.91	11.33	21.20	9.27	Φ-34
			198	—	—	—	—	276.35	117.62	255.49	108.73	—
		11. カラダル河(バルハツ湖に注ぐ) F=39,980km ² (シムカリスキイ氏による)										
35	33	河	55	975	5	4	838	56.35	28.70	55.23	27.61	Y-34
36	34	カラフク村	60	290	20	10	250	42.69	21.34	36.80	18.40	Y-33
37	—	ヂヤイバク界標	120	48	80	40	—	28.26	14.13	—	—	—
38	—	ココスオトガイ河	90	33	60	30	—	14.57	7.29	—	—	—
			325	—	—	—	—	141.87	71.46	92.03	46.01	—
		12. コクオウ河(カラダル河支流) F=6,340km ² (シムカリスキイ氏による)										
39	35	アラサソ河々口	45	570	25	6	540	104.88	25.17	99.35	23.84	Y-34
40	36	ユカタル河々口	29	212	50	12	193	78.02	18.72	71.02	17.05	Y-34
41	37	ヂソトオサイ河々口	43	300	55	14	271	121.44	30.91	109.80	27.95	Y-34
		イチケオウリヌ山よりの出口										

42	38	イチケオウリヌ山よりの出口	30	165	60	15	145	72.86	18.21	64.03	16.01	Y-33
			147	—	—	—	—	377.20	93.01	344.20	84.85	—
		13. ヲエソ河 F=15,270km ² (シムカリスキイ氏による)										
43	39	河 源(ツソダイケク山)	30	656	5	1	636	24.14	4.83	23.40	4.68	Y-34
44	40	アソチヤ・アラ河々口	45	290	12	3	290	25.61	6.40	22.97	5.74	Y-34
		アールイオトカスルヤ										
			75	—	—	—	—	49.75	11.23	46.37	10.32	—
		14. アカスウ河(バルハツ湖に注ぐ)										
45	41	河 源(ツソチカ・アウル河々口)	70	1302	6	2	1255	57.50	19.16	55.40	18.48	Y-34
46	42	アカスイスカヤ驛	160	119	12	4	12	10.51	3.50	1.10	0.38	—
		河										
			230	—	—	—	—	68.01	22.66	56.5	18.86	—
		15. レゾウ河(アガヌイ・カソト・イ・バル湖に注ぐ) F=14,650km ² (シムカリスキイ氏による)										
47	43	河 源	14	330	4	2	321	9.72	4.86	9.45	4.72	Y-33
		アニスイルクウリ湖										

48	44	チヌスイルクワリ湖	21	665	8	4	651	39.15	19.57	38.32	19.18	Y-35
49	45	サルイムサクトイ河々	34	275	24	12	252	48.57	24.29	44.50	22.20	Y-35
50	46	クチバイ・ツルルイ山よりの出口	90	174	30	15	114	38.42	19.21	25.17	12.53	T-34
51	47	レブシノスキイ哨所河	150	113	25	12	13	20.79	9.98	2.39	1.15	—
52	48	16. チノチク河 (チヌスイルクワリ湖に注ぐ) F=9,720km ² (シムカリスキイ氏による)	300	—	—	—	—	156.65	77.91	119.83	59.88	—
53	49	コソスキイノフスカヤ村	25	285	15	5	268	31.47	10.49	29.59	9.85	Y-35
54	50	コルバコフスキイ・チノチク河との合流點	28	203	40	13	185	59.76	19.42	54.50	17.70	T-35
		セイト・タルスキ・ツラスイ河々口	60	120	40	13	(80)	35.33	11.48	23.55	7.60	T-35
55	51	17. ウスベノフスキイ・チノチク河 (チノチク河支流) 方	113	—	—	—	—	126.56	41.39	107.64	35.21	—
		18. イルト・イシ河 (オビ河支流) F=153,748km ² (ソ聯内)	14	132	15	5	123	14.57	4.85	13.57	4.54	Y-35

56	52	ツルケベク河々口	42	62	500	54	34	225.00	24.64	125.12	13.51	T-37
57	—	カルイヂール河々口	41	14	550	61	—	56.80	6.28	—	—	—
58	—	チルヌイ・イルト・イシ河々口	60	2	600	61	—	8.83	0.90	—	—	—
59	—	サソソ湖	40	4	600	61	—	17.60	1.80	—	—	—
60	—	—	74	11	500	60	4	48.58	4.90	1.80	1.80	—
61	—	クルチヤ河々口	128	17	700	72	—	87.58	9.00	—	—	—
62	—	ナルイム河々口	86	11	700	86	—	57.67	6.33	—	—	—
63	54	フフタルヤ河々口	77	66	900	136	15	437.18	66.06	99.36	15.02	C-35
64	—	ユルヤコウヤ村	33	5	900	140	—	33.00	5.15	—	—	—
65	—	ツルイバ河々口	116	31	1000	156	—	228.00	35.59	—	—	—
66	—	ウバ河々口	123	25	1200	181	—	220.80	33.30	—	—	—
		セキバチノスク市										
67	55	19. カリヂール河 (イルト・イシ河支流) F=2,960km ²	823	—	—	—	—	1424.10	193.95	226.28	30.33	—
68	56	源	13.5	354	12.6	5.0	354	33.00	13.00	32.60	13.00	—
69	57	—	22	214	14.4	5.4	199	23.00	8.5	21.00	8.51	—
		—	12	149	16	5.7	141	18.00	6.25	17.00	5.90	—

70	58	河	源	5	21	17	5.8	18	2.63	0.9	2.3	0.70	
71	59	パワ・カリゲール河々口	32	235	20	6.6	214	34.59	11.42	31.50	10.40		
72	60	ニヂネ・カリゲール河	28	108	22	6.8	89	17.51	5.40	14.47	4.50	T-37	
73	61	21. カルチムン河 (イルト イシ河支流) F=4,500km ²	112.5	—	—	—	—	129.73	45.47	119.87	43.01	—	—
74	62	河	源	15	704	2.5	694	12.95	1.03	12.76	1.02	—	—
75	63	河 源 上 り 15 軒	14	426	7.5	0.4	417	23.51	1.26	23.02	1.22	—	—
76	64	河 源 上 り 29 軒	12	150	12	0.6	142	13.00	0.66	12.54	0.63	—	—
77	65	クソノブスズ河々口	4.7	128	13	1.3	125	12.25	1.22	11.96	1.20	—	—
78	66	河 源 上 り 45.7 軒	9.3	64	20	1.6	58	9.42	0.75	8.54	0.68	—	—
79	67	河 源 上 り 55 軒	11	128	22	1.8	121	21.00	1.70	19.60	1.60	—	—
80	68	テレクタタ河々口	14	149	30	2.6	140	32.90	2.90	30.90	2.68	C-37	—
81	69	カルクウチ河々口	20	107	34	3.1	94	26.77	2.44	23.55	2.15	—	—
82	70	河 源 上 り 100 軒	18	42	40	4.8	30	14.22	1.50	10.16	1.10	—	—
83	71	クイヌタマ河々口	11	64	48	5.2	57	23.00	2.45	20.14	2.20	—	—
		河 源 上 り 129 軒	80	43	55	6.2	38	17.41	1.96	15.38	1.73	—	—
		テラソソ河々口											

84	72	テラソソ河々口	43	128	58	6.9	99	54.64	6.50	42.00	5.00	—	—
85	73	河 口 上 り 29 軒	20	77	58	7.0	58	33.00	3.97	24.80	2.99	—	—
86	74	21. ナルイム河 (イルト イシ河支流)	281	—	—	—	—	294.07	29.24	237.34	24.20	—	—
87	75	河	源	28	412	18	363	54.58	2.43	52.06	2.31	C-37	—
		ベレソソカ河々口	80	173	49	3.4	120	63.39	4.33	43.30	3.00	C-37	—
88	76	22. ソソタルマ河 (イルト イシ河支流) F=16,500km ²	108	—	—	—	—	117.97	6.76	95.36	5.31	—	—
		河	源	6.1	685	2	681	10.03	1.00	10.02	1.00	—	—
89	77	—	8.9	235	6	0.8	229	10.38	1.38	10.00	1.34	—	—
90	78	—	13	469	14	1.5	460	48.33	5.18	47.40	5.08	—	—
91	79	河 源 上 り 約 16 軒	10	149	22	2.5	142	24.13	2.74	23.00	2.61	—	—
92	80	—	23	278	39	3.8	263	65.47	7.60	61.94	7.19	—	—
93	81	—	8.3	106	43	4.8	101	34.00	3.74	31.86	3.57	—	—
94	82	—	15	86	51	5.4	76	32.28	3.42	28.53	3.02	C-38	—

河 源	ノ 16	軒	6.5	42	73	8.8	38	22.25	2.72	20.40	2.46	—
95	83	河 源	23	64	76	9.5	49	36.00	4.50	27.00	3.40	—
96	84	ベローイ・スレーリ河々口	15	107	82	10	97	65.00	7.88	58.00	7.14	C-37
97	85	—	10	21	—	11	14	13.29	1.70	8.80	1.30	—
98	86	ウムルネ・チムルノーク河々口	14	86	92	12	77	58.23	7.60	52.14	6.80	—
99	87	—	15	85	96	13	75	61.76	8.16	54.49	7.18	—
100	88	—	14	64	98	18	55	46.16	6.12	40.00	5.30	—
101	89	サルム・サダ河々口	14	21	112	16	12	17.31	2.47	10.00	1.41	—
102	90	—	26	64	120	18	47	57.00	8.48	41.00	6.23	—
103	91	—	36	64	140	20	40	65.92	9.42	41.00	5.90	—
104	92	ヤゾーク河々口	7	4	140	22	1	6.00	0.02	1.0	0.10	—
105	93	—	42	58	160	26	30	68.00	11.00	35.00	5.74	—
106	94	チムルノーク河々口	19	33	180	34	20	53.00	8.26	26.00	5.00	—
107	95	ベリノクヤ及ビハイル・ダミソ河々口	58	51	210	40	12	79.00	18.01	18.55	3.53	C-36
108	96	トルダスソ河々口	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
109	97	23. ベレーリ河 (アソダルベ河支流) F=110km ²	383.8	—	—	—	—	863.59	118.97	646.73	85.21	—
		河 源	8	332	1.7	0.1	327	4.15	0.24	4.09	0.24	—

河 源	22	343	8.7	0.0	328	21.94	1.26	21.00	1.21	—	
110	98	チヨルヌイ・スレーリ河々口	24	325	26	309	62.19	3.59	59.13	3.41	—
111	99	ヤゾーク河々口	6.5	36	45	330	12.00	0.70	10.60	0.60	C-38
112	101	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
113	101	24. トルダスソ河 (アソダルベ河支流) F=1,400km ²	52	1500	23	1465	287.04	16.36	280.34	16.17	—
114	102	スタノーク河々口	20	246	56	233	101.39	5.80	96.03	5.50	C-37
115	103	25. ウリバ河 (アルトイソ河支流) F=5,400km ²	72	—	—	—	388.43	22.16	376.37	21.67	—
116	104	カドロフカ河々口	6	68	34	64	17.00	0.80	16.00	7.53	—
117	105	ボリシノイ・ルード曲部末端	6	48	36	44	12.72	1.00	11.65	5.18	—
118	106	チムルムシヤソサ河谷	23	37	42	22	12.00	1.03	6.90	0.62	—
119	107	トベークハ河々口	13	43	50	34	15.82	1.58	12.51	1.25	—
120	108	タラハンスコエ河谷	10	22	54	15	9.00	0.83	6.00	0.64	—
		ウーラヤ・ウリバ河々口	21	62	60	48	28.00	2.80	21.20	2.32	—

河川名	源	距離	幅員	落差	流量	平均流速	総出力	平均出力	備考			
121 ヲラヤ・ウリハ河々口	口	24	43	100	10.0	—	27	32.00	3.16	20.00	2.00	C-23
109 河		103	—	—	—	—	—	128.54	11.30	94.26	19.42	—
122 26. グロモト・ハ河(ウリハ河支流) F=400km ²	左右グロモト・ハ河合流點	32	971	12	0.8	—	948	85.75	5.71	83.73	5.58	—
110 27. チーハハ河(ウリハ河支流) F=730km ²	口	16	132	10.5	1.2	—	121	10.30	1.17	9.35	1.07	—
111 28. フイストル・ハ河(チーハハ河支流) F=140km ²	口	24	768	3.5	0.4	—	752	19.80	2.36	19.37	2.21	—
112 29. フリツボツカ河(チーハハ河支流) F=170km ²	口	38	768	4.0	0.5	—	743	22.50	2.80	21.70	2.73	—
124 30. チエラフリ・ハ河(ウリハ河支流) F=250km ²	源	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
125 113 河	口	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

126 114 河	源	42	1068	2.5	0.3	1040	19.80	2.36	19.14	2.30	P-36
127 115 河	源	56	1587	16	0.8	1549	187.00	9.34	122.00	9.12	—
128 116 河	源	22	107	38	2.0	32	30.00	1.58	8.95	0.47	—
129 117 河	源	14	49	49	2.6	40	18.00	0.94	14.43	0.77	—
130 118 河	源	8	57	56	2.9	52	24.00	1.21	21.43	1.11	C-36
131 119 河	源	31	164	50	3.6	143	60.35	4.30	52.70	3.79	—
132 120 河	源	32	61	72	6.0	40	32.33	2.69	21.20	1.77	—
133 121 河	源	21	33	30	7.1	19	19.43	1.72	11.19	0.99	—
134 122 河	源	3	22	86	8.0	20	14.00	1.30	12.65	1.18	—
135 123 河	源	5	29	96	9.6	26	21.00	2.05	18.37	1.84	—
136 124 河	源	41	26	100	10.0	—	19.14	2.00	—	—	—
137 125 河	源	36	24	110	12	—	19.63	2.12	—	—	—
32. ウハ河(イルト・イシ河支流) F=9,800km ²	源	100	—	—	—	—	259.00	13.07	226.81	11.47	—

138	—	ウビソカ河	16	10	137	15	—	10.08	1.10	—	—	—	—
139	—	フシール河	42	26	141	16	—	27.00	3.06	—	—	—	—
140	—	ウイドリーハ河	39	28	147	17	—	21.64	2.50	—	—	—	—
141	124	シモチナイハ河	5	5	156	19	2	5.74	0.70	2.30	0.30	—	—
142	125	タロフカ河	64	64	165	21	21	77.80	9.60	26.0	3.25	P-35	—
143	126	33. ベーラヤ・ウバ河(ウバ河支流) F=700km ²	335	—	—	—	—	328.14	33.14	144.41	13.12	—	—
144	127	34. ニロボロチヌカヤ・ウバ河(ウバ河支流) F=600km ²	41	1839	7.0	0.8	—	1812	11.00	93.35	10.68	P-36	—
145	128	35. ウビソカ河(ウバ河支流) F=1,600km ²	50	855	5.5	0.8	—	822	5.03	33.30	4.84	P-36	—
146	129	カザーク自治共和国の電力合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
147	130	36. ウラル河 F=220,000km ²	1161	—	—	—	—	148.97	15.77	80.80	8.51	—	—
		イレカ河	301	15	240	25	5.4	26.50	2.76	10.00	0.99	P-20	—
		ウラリヌク河	860	64	290	28	37	122.47	13.01	70.80	7.52	T-20	—
		カザーク自治共和国の電力合計	—	—	—	—	—	8787.70	2411.76	6187.61	1822.20	—	—

流域別に依るカザーク自治共和国諸河川の動力的特徴

(附録二)

河川の名	流域面積 (千平方料)	年平均発電力(千KW)			一平方料當年平均 発電力總量(千KW)		一平方料當年 発電力總量(KW)
		總	量	實	量	量	
イール・ダリヤ	295.0	1,254.0	489.2	999.6	0.7	4.7	
チル	(部分的)	489.2	109.0	415.8	—	—	
フール	15.0	109.0	77.01	77.01	0.5	1.5	
キロル	1	13.3	11.6	11.6	0.13	7.4	

スイル・ズリヤ河流域	—	1,846.1	1,504.1	—	—	—
内部河川流域	5.03	39.6	32.9	0.4	8	—
チ	79.2	147.7	21.5	0.2	1.9	—
イ	153.55	640.2	558.9	1	4.1	—
チ	12.36	368.5	331.9	1.4	30	—
チ	7.48	276.4	255.5	1.3	37	—
イ	153.55	1,385.1	1,146.3	—	8.4	—
カ	39.98	141.9	92.3	0.4	3.5	—
ユ	6.34	377.2	344.2	2.6	60	—
ビ	15.27	49.7	46.4	0.7	3.3	—
ア	—	68.0	56.5	—	—	—
レ	14.65	156.7	119.8	0.5	10.5	—
テ	9.72	141.2	121.2	1.1	14.0	—
テ	—	2,407.1	1,980.8	—	—	—
内部河川流域	1,537.48	1,424.1	226.3	1.7	0.9	—
カ	2.96	129.7	119.9	1.1	43.6	—
カ	4.5	294.1	255.4	1.0	65.4	—

ナ	—	118.0	95.4	—	—	—
ア	16.5	863.6	646.7	2.2	52.3	—
レ	0.11	100.3	94.8	1.6	912.0	—
ト	1.4	388.4	376.4	5.4	277.0	—
ア	16.5	1332.3	1117.9	—	80.0	—
ウ	5.4	128.5	94.3	1.2	23.4	—
グ	0.4	85.7	83.7	2.7	214.0	—
チ	0.73	10.2	9.4	0.6	14.0	—
ア	0.14	19.8	19.4	0.8	141.0	—
ア	0.17	22.5	21.7	0.6	132.5	—
チ	0.25	19.8	19.1	0.5	79.5	—
ア	2.4	259.0	226.8	2.6	108.0	—
ウ	5.4	543.5	474.4	—	100	—
ウ	9.8	328.1	144.4	1	33.5	—
ベ	7.0	94.7	93.3	2.3	13.5	—
ベ	0.6	34.6	33.3	0.7	57.7	—
ウ	1.6	67.4	61.6	0.75	42.0	—

ウ	バ	河	流	域	9.8	524.8	332.6	1	54.0				
イ	ル	ト	ハ	イ	シ	河	流	域	1537.0	4385.5	2921.9	1	2.8
ウ	ラ	ル			220.0	149.0	80.8	7.4	39.0				
カザーク自治共和国の発電 力合計					-	8787.7	6187.6	1	-				

露文 翻譯文
ソ連極東及外蒙調査資料既近刊目錄

第一編	ソ連極東地方要覽	菊判	二六二頁
第二編	ソ連極東の運輸交通問題	同	二三八頁
第三編	モスコウ—イルクツク航空路の氣象	同	一八一頁
第四編	南ザバイカルの地形と土壤(上卷)	同	三四一頁
第四編	南ザバイカルの地形と土壤(下卷)	同	二四七頁
第五編	シベリア經濟地理(上卷)	同	二六五頁
第五編	シベリア經濟地理(下卷)	同	二九六頁
第六編	蘇城・オリガ聯合企業	同	三二二頁
第七編	ソ連極東地方の自然地理及礦物資源に関する新資料	同	三一頁
第八編	東部シベリアの自然地理及礦物資源に関する新資料	同	二一八頁
第九編	ソ連極東及東部シベリアの自然資源と其利用に関する新資料(上卷)	同	二〇七頁
第九編	ソ連極東及東部シベリアの自然資源と其利用に関する新資料(下卷)	同	二八二頁
第十編	ビロビチャン(猶太人自治州)要覽	同	一一〇頁

露文翻譯ソ連極東及外蒙調査資料既近刊目錄

露文翻譯ソ聯極東及外蒙調査資料既刊目録

- 第十一編 ブリヤート蒙古自治共和国現勢
- 第十二編 外蒙調査資料 第一輯
- 第十二編 外蒙調査資料 第二輯
- 第十三編 ソ聯極東地方人種誌
- 第十四編 永久凍土層の研究
- 第十五編 東部シベリア地方經濟要覽
- 第十六編 外蒙古の食肉資源
- 第十七編 東部シベリア地方の有色金屬鑛床
- 第十八編 外蒙古地誌(上卷)
- 第十八編 外蒙古地誌(下卷)
- 第十九編 新疆よりゴビ沙漠を横ぎる
- 第二十編 シベリアの炭田
- 第二十一編 北地航空路の研究(上卷)
- 第二十一編 北地航空路の研究(下卷)
- 第二十二編 ソ聯極東の森林
- 第二十三編 西部蒙古族及び滿洲族(上卷)
- 第二十三編 西部蒙古族及び滿洲族(下卷)

二

菊判 三〇三頁
 同 二〇二頁
 同 一八四頁
 同 二五〇頁
 同 一一一頁
 同 三五三頁
 同 九九頁
 同 一五一頁
 同 二六四頁
 同 一七二頁
 同 一一四頁
 同 二五八頁
 同 二一九頁
 同 二六四頁
 同 四二三頁
 同 三四一頁
 同 二六〇頁

- 第二十四編 アムグン・ブレヤ 四河河孟調査資料 第一輯
- 第二十四編 ウダ・セレムジ 四河河孟調査資料 第二輯
- 第二十四編 アムグン・ブレヤ 四河河孟調査資料 第三輯
- 第二十四編 ウダ・セレムジ 四河河孟調査資料 第四輯
- 第二十四編 アムグン・ブレヤ 四河河孟調査資料 第五輯
- 第二十五編 アムール・ヤクツク 氷上滲出水
- 第二十五編附録 一九二七—二八年冬季に於ける アムール・ヤクツク 幹線鐵路の 氷上滲出水圖面集
- 第二十六編 全蘇聯鐵道輸送統計
- 第二十七編 ソ聯極東の水産及畜産
- 第二十八編 カザクスタン諸州概観
- 第二十九編 南ヤク・テヤ 部 氣候・地形・土壤・植物誌
- 第三十編 全ソ聯鐵道貨物移動統計
- 第三十一編 東部シベリア地方自然地理概観
- 第三十二編 ソ聯極東地域に於ける新建築材料

三

菊判 一四六頁
 同 二〇六頁
 同 一四八頁
 同 一四〇頁
 同 一二八頁
 同 二五〇頁
 四六倍判 三六頁
 菊判 一六七頁
 同 二六七頁
 同 一一九頁
 同 二四六頁
 同 二二二頁
 同 二七〇頁
 同 一一六頁

露文翻譯ソ聯極東及外蒙調査資料既刊目録

露文翻譯ソ聯極東及外蒙調査資料既刊目録

第三十三編	ソ聯極東の産金地(上卷)	四
第三十三編	ソ聯極東の産金地(下卷)	菊判 二八七頁
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第一輯	同 三二二頁
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第二輯	近刊
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第三輯	菊判 二八八頁
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第四輯	同 二三五頁
第三十四編	ソ領亞細亞動力資源調査書 第四輯	同 二〇〇頁

昭和十一年十月二十五日印刷
昭和十一年十月三十日發行

露文ソ聯極東及外蒙調査資料 第卅四編

ソ領亞細亞動力資源調査書 第四輯
(カザーク自治共和國篇)

大連市伏見町一四番地
著作人 中 島 宗 一

大連市近江町九一番地
印刷人 山 田 浩 通

大連市近江町九一番地
印刷所 東亞印刷株式會社

大連市東公園町三〇番地
發行所 南滿洲鐵道株式會社

終

